

留学前報告書(MBA 合格までの経緯)

2015.6.5

永島航洋

1 始めに

2015年8月より **Carnegie Mellon University, Tepper School of Business** に進学予定の永島航洋と申します。私は大学～大学院時代は東京大学で物理工学を専攻し、その後、工学の知識を生かして人々の生活に貢献したいと考え、医療/精密機器のメーカーで技術開発を行ってきました。業務を進めるなかで、技術開発をもっと良くできる点があると感じ、それはまた **MBA** で学べると考え、受験にトライしました。以下に、**MBA** 合格までの経緯を記します。

2 モチベーション

2.1 留学を志したきっかけ

留学を考え始めた理由は幾つかありますが、そのうちの二つをご紹介します。

一つ目は会社での研究開発業務をもっと良くしたい、という思いからです。個々が研究を楽しみ、没頭し、その成果がひとつの製品やサービスとなり世界を良くしていく、そんな入社前のイメージとは違う現実がありました。トップダウンでやらされ感のある開発や、逆に技術者が面白いと思ってやっても製品につながらない研究などを目の当たりにしました。私自身、実験に没頭できないテーマを持つこともありました。なぜ、このような状況が生まれているのか。開発している技術とそれを応用する製品、また、開発を行う人材がうまく組み合わせっていない、と考えるようになりました。これらをうまく機能させるためには技術の内容だけでなく、適応製品及びマーケットの評価やチーム編成といった技術以外の内容を理解する必要があると考え、そしてこのような内容を **MBA** で学べるのでは、と考えました。

二つ目は 4 歳年下の弟の影響です。弟は私と同じ小学校、中学校、高専(機械工学科)で学んできました。その後、高専を中退し、米国のコミュニティカレッジに入学、ニューヨーク州立大学を経て、現在はハーバード大学の **Ph.D** コースで物理を学んでいます。時々、**Skype** で話をするのがあったのですが、そのたびに弟は留学先での経験(異文化との交流や研究など)をととても楽しそうに話してくれました。話しをするなかで私は弟の成長をひしひしと感じました。留学するまでの弟の世界は私の知っている世界であり、常に私が一歩先を歩いていて、私が教える立場でした。私は、私の知らない世界を弟から聞かされたことにととても大きなショックを受けました。自然と、弟の見た世界を見てみたい、と思うようになりました。

2.2 留学中に学びたいこと、またその後のキャリア

技術をいかに製品やサービスにつなげるか、ということにフォーカスしてマーケティングやアントレプレナーの科目を学びたいと考えています。また、技術開発にとって最適な人材配置を学びたいので **Human Resource Management** の分野も積極的に学びたいです。さらに **CMU** では **Management of Innovation and Product Development** や **Technology Leadership** といった製造、技術に特化したプログラムが準備されており、技術とビジネスがオーバーラップした領域を学びたい私にとってはとても楽しみなカリキュラムになっています。

留学後は、技術開発に携わってきた経験と **MBA** で学ぶ知識を活かした仕事をしたいと考えています。①技術系のスタートアップの立ち上げを支援する組織で経験を積む、②技術系スタートアップにマネジメントのポストで参画する、③技術と製品と人材をコビキタスにつなぐ新しい枠組みを作る、といったことを考えています。

3 受験準備開始から合格まで

3.1 スケジュール

受験準備開始から合格までのスケジュールを以下に示します。

【2013年】

2月:MBA受験を思いつき、その日にGMATとTOEFLの受験を申し込む。結果、GMAT500点ぐらい、TOEFL80点ぐらい。ここからひたすらTOEFL対策を進める。
8月:TOEFLで100点を獲得。2014年末の受験を考えていたので、かなり順調な滑り出し。が、その後、伸び悩み。

【2014年】

5月:TOEFLで103点を獲得(出願スコア)。GMATの勉強を開始。
7~8月:GMATの勉強と平行して奨学金の準備を実施。GMATでもいっぱいだったのがかなりしんどかった。
9月:GMATで640点。カウンセラーと相談し、1stでの出願を断念。まさか出願スコアになるとは！
10月:エッセイの作成を開始。
11月:船井財団奨学金採択！かなりテンションがあがる。1年延長も視野に入っていたが、14年度の出願を決意。
9~12月:GMATの勉強とエッセイを平行して進める。
12月:満を持してGMAT。500点台をたたき出し、メンタルにかなりのダメージを負う。

【2015 年】

1 月:7 校への出願を実施。面接対策セミナーに参加し、面接に備える。CMU からはすぐに面接に呼ばれ、スカイプで面接実施。他の学校の面接も実施。

2 月:数校から合格をもらう。

3 月:中国出張中に CMU から結果通知メールが届く。CMU 合格。

3.2 結果一覧

表 1 に合否のまとめを、表 2 に出願スコアを示します。

表 1. 合否のまとめ

出願校	インタビュー	合否
Babson College	Skype	合格
Carnegie Mellon University (進学先)	Skype	合格
Georgia Institute of Technology	Skype	合格
Massachusetts Institute of Technology	無し	不合格
Purdue University	Skype	合格
University of California, Berkeley	無し	不合格
University of California, San Diego	Skype	合格

表 2. 出願スコア

TOEFL	Total 103 (R29 L23 S23 W28)
GMAT	Total 640 (Math 50 Verbal 27)

4 最後に

MBA 受験は自分だけでなく周囲へも相当な負担がかかります。家族や職場とのコミュニケーションをしっかりとって準備を進める必要があると思いました。特に妻とのコミュニケーションはもっと密にとっておけば良かったと反省しています(汗。とても大変な 2 年間でしたが、その間、取り組みを支えてくれたことにありがとうと伝えたいです。また、製品適応に向かってプロジェクトを進めなければいけない中、業務負荷を調整してくれた上司、同僚の方々に、そして出願過程を強力にサポート頂いた船井情報科学振興財団の関係各位に心より感謝申し上げます。

以上